

「生きる」ということだつて十分分かってい
ないのに、なんで先々の「死」などというこ
と、分かろうわけないではありますか。
先々の「死」を案ずるよりも今の「生」を
力一杯生きましょうよ」

成る程その通りとわたしは思つて参りました。
その通りと思つて来たのですが、最近、か
んがえるようになりました。

「死」というものは万人決して避けられない
ものです。キットだれにもやつて参ります。
老も死も。

現にわたしにも老いが日々迫つて来ていま
す。身近な人が相次いで死んでいきます。

私の妻は四年間不治の病と戦つて十年前に
死にました。妻は最後までむしろその病を大
事に大事にいたわり、病と死とに真正面から
取り組む四年の歳月を終えてそれでお淨土へ
かえつていったと思ひます。

その妻は、その真摯な死との取り組みのな
かで、いわば彼女の新しい人生を拓いていっ
たように思います。

それは「感謝」と「お念佛」のすがすがし
い世界であります。

「ありがとうございます」

なにもしてやれない私に、妻は最後までそ
のように言つてくれました。

また、「息しなくなつたら、そこがお淨土
ネ。また出会えるわネ」とよろこびました。

「生きる」ということだつて十分分かってい
ないのに、なんで先々の「死」などというこ
と、分かろうわけないではありますか。
先々の「死」を案ずるよりも今の「生」を
力一杯生きましょうよ」

成る程その通りとわたしは思つて参りました。
その通りと思つて来たのですが、最近、か
んがえるようになりました。

「死」というものは万人決して避けられない
ものです。キットだれにもやつて参ります。
老も死も。

現にわたしにも老いが日々迫つて来ていま
す。身近な人が相次いで死んでいきます。

私の妻は四年間不治の病と戦つて十年前に
死にました。妻は最後までむしろその病を大
事に大事にいたわり、病と死とに真正面から
取り組む四年の歳月を終えてそれでお淨土へ
かえつていったと思ひます。

その妻は、その真摯な死との取り組みのな
かで、いわば彼女の新しい人生を拓いていっ
たように思います。

それは「感謝」と「お念佛」のすがすがし
い世界であります。

「ありがとうございます」

なにもしてやれない私に、妻は最後までそ
のように言つてくれました。

また、「息しなくなつたら、そこがお淨土
ネ。また出会えるわネ」とよろこびました。



老いや死から逃げないで、それとキッチリ
と取り組むなかで、すばらしいあたらしいす
がすがしい人生を拓いていったその人のこと
を思うにつけ、なんとまあ、老いや死から目
をそらし、日々ええかげんなくらしようをし
ている私自身に、悲しいというか、いらだた
しいと言うか、十年たつたいまでもわたしと
一緒にいてくれる妻に恥ずかしくおもうので
す。

六月九日	葬儀	中嶋 永井
六月二十三日	矢根	房枝 さま
(七七歳)		

◎法泉寺和上さん

あなた極楽
わたしはしゃばで
どつちもひとつ
なむあみだぶつ

『永代経』は、一般におこなわれている
「亡きご祖先さまのお供養のために年々たえ
ることなくお経をあげる法要』ではあります
が、淨土真宗では、その慣習に従いながら、そ
の内実を次ぎのように読み替えて真宗独自の
『永代経法要』をつとめています。

わたし自身のこのい
のちの永遠の「経」
へよりどころを求める法要。

永代経法要ご案内

蓮如上人はご文章のなかでしばしば「後生
一大事をここにかけよ」とおっしゃつて
くださいます。
一回しかない大切な「死」の縁。それから逃
げるな目をつぶるな。たいせつに取り組みな
さい。その取り組みのなかで如来さまに願わ
れているすがすがしい人生が開けてくるのだよ
と、上人ご自身のご経験のなかからそう教え
てくださったのだと、わたし最近気づかせて
いたいたことでありました。

昭和五十一年から始まつた出石組の『連研』
(門徒推進員育成連続研修)は、一期二年十
二回の研修を積み重ね、今年から十三期を迎
えます。この『連研』を終了した人達がいま
勝林寺の中核として仏事活動・仏婦活動など
にリダーシップをとつて下さっています。寺
を活性化する原動力、これがこの連研から育つ
ています。

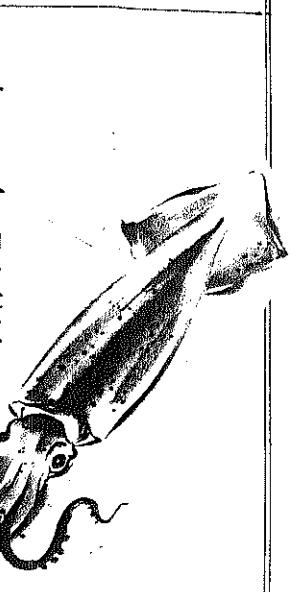
今期は、坂本 貢さま、湯口 博文さま、
大石 正代さま、関川 鈴子さま 四名が研
修なさいます。どうぞ応援お願ひします。

七月十五日、日高町八代の光顕寺で第二回が
行われます。

一日 滝清相撲・おみがき奉仕
二日 近畿布教使研修会(兵庫教区)
三日 同じ DS
四日 兵庫教区青年僧侶の会研究会(豊岡)
五日 教区連研研究会(教務所)
六日 同朋運動講師研修会・學習会
七日 西方寺永代経
八日 西方寺永代経
出石組仏事連盟総合会
永代経法要
勝林寺仏婦紹介会
慶縁庵落成

出石組『連研』

第十二期研修はじまる



七月のこよみ

一日 滝清相撲・おみがき奉仕
二日 近畿布教使研修会(兵庫教区)
坪木勉氏宅法事
高福寺永代経

播磨中組研修会
坪木勉氏宅法事
高福寺永代経

三日 同じ DS
四日 兵庫教区青年僧侶の会研究会(豊岡)
五日 教区連研研究会(教務所)
六日 同朋運動講師研修会・學習会
七日 西方寺永代経
八日 西方寺永代経
出石組仏事連盟総合会
永代経法要
勝林寺仏婦紹介会
慶縁庵落成

十一日～十四日 住職課程法座指導(山口)
十三日 健全育成研修会
十四日 コール・ルーチェリサイタル
十五日 D S / 検診・作業所運営委員会
十六日 出石組『連研』(光顕寺)
朗誦「あすなろ」編集会
永井淳氏宅法事
十七日 友遊クラブ
寺族同朋講座(西宗寺)
十九日 田中清喜さま初盆
二十日 兵庫教区連研修了式
藤山和子氏宅法事
二十一日 横山洋海氏宅法事
二十二日 朗誦「あすなろ」録音日
二十三日 田中清喜さま初盆
二十四日 兵庫教区連研修了式
二十五日 前坊守祥月命日
二十六日 永井とく様忌明け・初盆
二十七日 仲田義夫氏宅法事
二十八日 湯口富雄氏宅初盆
二九日 斎藤自信氏宅法事
宍粟組寺族婦人研修会

老博士A先生の述懐

「この絵のおかあちゃん、ほんものじゃない！」

主治医のA先生が、瞳子(とうこ)ちゃんの全快祝いのパーテーのために、真心こめて描きあげて贈ったその絵を、まじまじと見つめていた四歳のこの子がそう叫んだとき、まずA先生がびっくりしました。

「瞳子ちゃん。瞳子ちゃんがこんなに元気になつたのは、ここにいるあなたのおかあちゃんのおかげだよ。先生はネ、この二年間、お母さんのそのお姿に感動してあなたを治したのは医療じゃない、この母の愛情一つなんだ」と知らされて、その感動のまま、お母さんの看病のお姿を描かしてもらつたんですよ。ホレ、お母さん、ねんねしているあなたにスプーンでお食事たべさせているじゃーーない。この絵、本物でないって、なぜなの」「だって、だって、絵のおかあちゃん、お口を開けてないんだもん」

後日、A先生、おっしゃつていました。「あのときは、本当に一本とられましたよ。母と子の愛情、わかつていてつもりだった私を恥ずかしく思いました。瞳子ちゃんは二年もの間、ペットのうえでおかあちゃんをじつと見ていました。私がお口を開けるまえにおかあちゃんアーンして、お口あけてそれで私の口を開けさせてくれるんだ。そうするのがおかあちゃん。お口アーンするのがおかあちゃん。そのおかあちゃんが先生のくれた絵には書いてない」

いまはもうおとしとを召したA先生は、次のように述懐なさるのです。

ホレ、和顔愛語 先意承問。ホトケサマのあのおやさしい言葉、やさしいお顔は、わざが辛い苦しいというより先に、「悲しいだろうねー、辛いだろうねー」とわたしのころをのぞき込んで尋ねてくださると言うではありませんか。それがほんとうの母親だつて。学習のあの習と言う字。鳥のおかあちゃんが、まず羽ばたいて見せて、何度も何度も羽ばたいて見せて、それを子供が真似をして、何度も習っているあいだに飛べるようになる。その親子の姿を文字にしたのがあの習うと言う字だそうだ。

親のこころが子供を育てる、親心が子供にくださる。淨土真宗の信心は、行信次第といつた慶びの南無阿弥陀仏がわたしの口から出て、如来さまがお口をあーんとあけてよんでも下さる。それを何日も何度もみている内に、如来さまとおんなじ南無阿弥陀仏と呼べる信心がわたしの口にでてくださるのだと、私最近ある作家に教えていただいて、目からうろこが落ちたようなおもいから、ついむかしの事などを思い出してしまったのです。

清掃・おみがき奉仕

七月一日 午後2時より

納骨参拝研修旅行



勝林寺仏教婦人会

総会

七月九日 午前九時半開会

記念講演

西光 義敏先生

(社会福祉カウンセリング専攻龍大教授)

最近とくに目をそむけたくなるような事件が起きていますね。人の「こころ」はどうなっているのだろう、わたしの「いのち」はどうなるのだろう。

真剣に考えたいものです。寄り合い話し合いましょう。

作品展示会

例年どおり永代経法要期間中展示します
作品は六日までに搬入して下さい。

評議員さま

作品募集にご協力ください

